

東京有明医療大学第5回モンゴル海外研修渡航記

半谷悠香¹⁾ 久米信好²⁾

【2019年モンゴル海外研修日程】

8月21日（1日目）・・・成田空港発，モンゴル国チンギスハーン空港到着（ウランバートル市）
8月22日（2日目）・・・モンゴル日本教育病院，モンゴル伝統医療センター見学と臨床実習
8月23日（3日目）・・・モンゴル国立外傷整形外科病院，レスキュー隊体育施設見学
8月24日（4日目）・・・第3回国際交流シンポジウム（学生発表）
8月25日（5日目）・・・第3回国際交流シンポジウム（教員発表）
8月26日（6日目）・・・モンゴル国ヘンティー県
8月27日（7日目）・・・ヘンティー県伝統医療センター見学と臨床実習
8月28日（8日目）・・・ウランバートル市にて第1回櫻井理事長杯国際交流スポーツ大会
8月29日（9日目）・・・ウランバートル市観光
8月30日（10日目）・・・モンゴル国チンギスハーン空港発，成田空港到着

1日目：8月21日

引率教員久米先生，高橋先生，寺井先生，徳安先生，参加学生17名の全員が万全な状態で集合し，櫻井理事長，成瀬学部長，橋本学科長の見送りを受け，いざモンゴル国ウランバートル市へ出発した。（図1）

フライト中，「柔整総論」の資料が配付され，勉強をしながらチンギスハーン国際空港に5時間45分後到着しました。（図2）

空港には羊のような香りが広がり，モンゴルの教員と学生数名が出迎えてくれました。外に出ると，カラッとした空気に20時でも明るい空が広がっていました。ここから宿泊先のホテルに向かい移動しました。モンゴルの大渋滞を抜け，1時間程度でホテルに到着し，軽く夕食を済ませて明日に備えました。

2日目：8月22日

朝，モンゴル国立医療科学大学で，アマルサイハン副学長と面会した後，日本のODAで建設したモンゴル日本教育病院，モンゴル伝統医療国際学校，モンゴル伝統医療センターの見学とモンゴル伝統医療センター内のスポーツ外傷科で臨床実習を行いました。（図3，4）

臨床実習では，子供から高齢者まで多くの患者様が訪れ，約20名の治療を見学しました。

日本と同様，腰と膝の痛みで来院する方が多く，柔道整復を初めて受けた患者様らは満足した顔で帰って行きました。中には，外傷による脱臼や骨折の患者様もいて，多くの疾患を見学することができました。（図5，6）

モンゴル伝統医療国際学校の新校舎は講義教室の他にも多くの資料室があり，モンゴルの伝統医療だけでなく，中国やロシアの伝統医療に関するもの，仏教によるものなど，治療道具，漢方，書物などが保管されていました。日本から寄贈されたものも多く，日の丸の国旗を見て嬉しくなりました。

モンゴル日本教育病院はまだ開業していませんでしたが，ほとんどの準備ができていて機材も設備も最新のものでした。診察室，入院ベッド数も多く，開放感のある病院で，特に小児病棟を広く設けて保護者が隣で寝泊まりができるような配慮がされていました。しかし，開き戸が多く，扉下に段差があったので車いすでの移動は一人では難しそうだと感じました。

1) 東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科3年

2) 東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科 E-mail address : n-kume@tau.ac.jp

3日目：8月23日

朝8時にバスに乗り、午前中はモンゴル国立外傷整形外科センターの見学を行い、午後はモンゴル人でも入ることができないレスキュー隊体育施設の見学と臨床実習を行いました。

モンゴル国立外傷整形外科センターは1960年に建てられ、会議室や講堂などもある広い病院です。モンゴルを3分割したうちの1つの地域の患者が集まり、ベッド数は466床、昨年の手術数は10,479件、外来患者数は29,340名。入院しても病室に入れず廊下にベッドを置いて寝ることもあるとのこと。特に夜は外傷患者が多くなり、診察室の前に列ができるとのことでしたが私たちが病院に入ったとき、すでに受付の前のベンチには座りきれないほどの患者様が診察を待っていました。院内見学では、ほとんどの設備と四肢骨折の患者さんがいる病室を見学しました。多くの患者様が手術を待つ中、その骨折の中には柔道整復術の保存療法で治療できるものもあり、柔道整復術がこの病院でも取り入れられれば良いのにと感じました。

レスキュー隊体育施設では、久米先生の友人であるラクチャー課長が施設の説明をしてくれた後、レスキュー隊員やスポーツ強化選手の施術を久米先生が行いました。尾骨骨折や鼻骨骨折の徒手整復も間近で見ることができ、その他スポーツ外傷など20人程の患者様が息つく暇もなく訪れました。久米先生は疲れた様子も見せることなく、モンゴルの方一人ひとりに丁寧に話し、皆さん満足した様子でした。(図7, 8) 施術後、モンゴルのスポーツ、レスキュー隊に貢献した方に送られる勲章を授与されました。また、帰る前には体育館をお借りし、皆さんとバスケットボールを行い、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

4日目：8月24日

第3回国際交流シンポジウム学生発表の日でした。日本の学生7名とモンゴルの学生9名が研究発表を行いました。発表する日本とモンゴルの学生たちは2日間、夜遅くまで久米先生の部屋で発表の練習と指導を受けていたようで、どれも素晴らしい発表でした。

モンゴルの学生は固定概念に囚われない研究を行い、日本の学生は専門疾患や競技に着目した研究を行っていました。発表後には日本の先生方がモンゴルの学生、モンゴルの先生方が日本の学生の発表を審査し、ベストプレゼンターの表彰と記念品の授与が行われました。最後に日本とモンゴル双方の学生が参加した包帯早巻大会が行われ、モンゴルの学生が優勝し治療器が贈呈され、大変盛り上がりしました。(図9, 10)

夕食後には、ザイサン丘展望台に上りウランバートルの夜景を一望しました。

頂上には1939年の「ハルハ川の戦争」(ノモンハン事件)のモンゴル人民義勇軍の友軍となったソ連兵を記念してつくられた記念碑があり、点火台を囲うようにモザイク壁画がありました。平和を願う絵が描かれています。(図11, 12)

5日目：8月25日

シンポジウム2日目は日本とモンゴルの教員による講演で一般の医療関係者も多く参加されました。講演前には本学の本間学長が考案された「ラッタッタ体操」を全員で行い、呼吸を整えました。日本からは寺井先生が再生医療、高橋先生が腕神経叢損傷、久米先生が肩周辺の疼痛について、モンゴルからはオユナ先生がモンゴルバリアージの行う橈骨遠位端骨折の治療、ラグシマー先生が変形性膝関節症の鍼治療、ズル先生がモンゴルの伝統医療における外傷治療の講演がありました。

各講演とも質問や意見が飛び交い、初めて国際シンポジウムというものを経験しました。(図13, 14)

講演後には久米先生が実際の患者様で実技を行い、日本の学生たちも授業では教わることのない初めて見る治療に何が起こったのか息を飲む経験をしました。3名の患者様は、痛みの原因がわかり、楽になったと喜んで帰られました。

6日目：8月26日

モンゴル伝統医療セラピスト学科の4年生と共に、チンギスハーン生誕の地ヘンティー県へバスで向かいました。

途中、草原の中にたたずむチンギスハーン像を見学しました。(図15, 16)

皆で川のほとりで昼食を取り、バスの中ではトランプ・歌などで盛り上がりました。気がつくと前にも後ろにもまっすぐに伸びる一本の道路と草原の雄大な景色が現れていました。

ヘンティー県の入り口に到着すると、ヘンティー県伝統医療センターの先生方が馬乳酒とヤギのミルクでできたお菓

子を持って出迎えてくださいました。(図17, 18)

伝統医療センターで夕食をいただいた後、満天の星空を期待し夜の草原へ向かいました。

町の明かりが届かない場所へと移動しバスを降りると、満天の星空が360度に広がっていました。普段見ることできない美しいものでした。

夜空に打ち上げ花火をあげ、ヘンティー県の1日目が終了しました。

7日目：8月27日

ヘンティー県伝統医療センターの見学と久米先生が腰痛の講演を行い、実技講演を入院患者様で行いました。センターは入院病棟もあり患者様も数人いましたが、都心のウランバートルと比べ、町や病院の規模は小さく治療機器もロシア製の古いもので、地方との差を実感しました。

ヘンティー県伝統医療センターの先生方との交流を終え、博物館でヘンティー県の歴史や今後計画されている観光プロジェクトのお話を聞きました。その後、伝統医療センターの先生方と遊牧民のゲルにお邪魔し、郷土料理であるホルホグをご馳走していただきました。外は雨と風が強い状況でしたがゲルの中は暖かく、ヤギのミルクティーはやさしい味でとてもおいしかったです。食事の後は雨にも負けず、乗馬やバイクを楽しみました。(図19, 20, 21)

8日目：8月28日

東京有明医療大学とモンゴル国立医療科学大学の第1回櫻井理事長杯国際交流スポーツ大会でバレーボールとバスケットボールの試合を行いました。教員チームと学生が5つのチームに分かれ、日本人とモンゴル人の混合チームのため言葉の壁をうまく乗り越えながら皆、本気で戦っていました。教員チームと学生Aチームが同点でしたが、先生方のご厚意により学生Aチームが総合優勝しました。更にMVPを獲得したのは、学生で1番小柄ながら1番の頑張り屋さんだった、東京有明医療大学の1年生女子でした。(図22, 23)

9日目：8月29日

最終日は、ウランバートル市内の観光とショッピングに行きました。

ラマ教のガンダン・テクチェンリン寺院を見学し、摩尼車という回転させるとお経を読むことと同じ御利益のあるコマを回しました。(図24, 25, 26)

カシミヤのブランド「GOBI」で買い物を行いウランバートル観光を終えました。夕食の後にはモンゴルの学生が記念品をもって私たちの宿泊しているホテルに会いに来てくれました。(図27, 28)

10日目：8月30日

10日間の短期モンゴル研修を終え、お世話になったモンゴルの先生方、学生の皆さんに心から感謝を申し上げます。

日本では決して体験することのできない、見ることができない経験を沢山させていただきました。この経験を単なる思い出にしないために、これから私たちはより多くのことを学び、後輩たちに繋げていきたいと思いました。

今回、このような研修の機会を与えて引率してくださった先生方、苦楽を共にした先輩と後輩、そしてこの研修に参加させてくれた保護者に深く感謝申し上げます。(図29)



写真1 成田空港



写真2 MIATモンゴル航空の飛行機とチングスハーン国際空港



写真3 モンゴル国立医療科学大学



写真4 モンゴル日本教育病院



写真5, 6 モンゴル伝統医療センターでの臨床実習



写真7, 8 レスキュー隊体育施設での実習



写真9, 10 第3回国際交流シンポジウム学生発表と包帯早巻大会



写真11, 12 ザイサン展望台と夜景



写真13, 14 第3回国際交流シンポジウム教員講演とラッタッタ体操



写真15 チングスハーン像



写真16 チングスハーン像下の乗馬体験と鷹のふれあい体験



写真17, 18 ヘンティール入り口門と集合写真



写真19, 20, 21
ゲルでの食事と生活



写真22, 23 第1回国際交流スポーツ大会



写真24, 25, 26
ガンダン・テクチェンリン寺院



写真27, 28 市場とノミンデパート



写真29 帰国後集合写真